

米子市 文化活動館 通信



ミヤコドリ



ユリカモメ

織物教室を新設 充実した講座へ



館長 中村輝彦

当館が文化活動館に`衣替え、して1年が経過いたしました。昨今の頃は、新型コロナウイルスの影響で当館も約20日間にわたって臨時閉館しました。その後も活動が制限され、利用者の方にはご不便をおかけしました。県西部は、首都圏などと違い急速な感染拡大に至らず、比較的、落ち着いた状況にありました。このため、利用者は昨年度、徐々にではありますが持ち直し、増加傾向を維持しました。

さて、今年度ですが、従来から好評を得ている「ベーシックヨガ教室」、「いざという時の着物着付教室」、「社会で役立つ毛筆習字教室」、「初めての中国語教室」の受講者を募集します。加えて、当館の設置目的「市民の文化活動の促進とふるさとに対する意識の高揚及び観光の振興に寄与する活動の支援」の一環として、初めての試みとなる「織物教室」を開講します。伝統工芸「弓浜緋」のファンづくりを目指すとともに、受講者が創造性を生かした織物制作に取り組む教室です。将来に向けての構想としては、皆生温泉にも近いという立地を生かした弓浜緋の観光体験もできる施設を念頭に活動を展開したいと考えています。

弓浜緋の世界(上)

藍色の地に白い文様が浮かびあがる緋織物の中でもひととき光る「弓浜緋」は、米子と境港両市にまたがる弓浜半島が故郷です。江戸時代前期、この地に始まった綿栽培が「伯州綿(はくしゅうめん)」を育み、現代に受け継がれてきました。その優れた綿を原料とする弓浜緋は、江戸中期に農家の自家用として始まって特産化。明治時代にかけて生産量が増大して最盛期を迎えました。弓浜緋は、機械紡績の台頭などで衰退する苦難の歴史をたどりながらも、今にその技が継承されています。米子市文化活動館では令和2年11月、初めて「弓浜緋体験教室」を催し、市民の方に伝統工芸の素晴らしさに触れていただきました。郷土が誇る弓浜緋を紹介します。(山)=裏面へ



弓浜緋体験教室

四季折々



ミヤコドリ=米子市

鳥取ゆかりの万葉歌人、大伴家持が名付けた都鳥(ミヤコドリ) 山陰地方では珍しい渡り鳥「ミヤコドリ」=写真=に令和2年3月18日、米子市の日野川河口で出合った。ミヤコドリの鳥名は、天平宝字2(758)年に因幡国(鳥取県東部)の国守(長官)として赴任したとされる県ゆかりの万葉歌人、大伴家持が名付けたという。奈良時代の『万葉集』巻20に、家持の和歌「舟競(ふなぎほ)ふ 堀江の川の 水際(みなきは)に 来居(きゐ)つつ鳴くは 都鳥かも」が収められている。「ミヤコドリ」に関する最初の出典で、命名の由来は、シンプルに都にいる鳥と推測される。和歌で表現された「都鳥」の種類には、論争がある。現代のミヤコドリとユリカモメの2説で、後者が有力とみられている。有名な平安時代の歌物語『伊勢物語』の東(あずま)下りの段で詠まれた「名にし負(を)はば いざ事とはむ 宮こ鳥 わが思う人は ありやなしやと」がある。この「宮こ鳥」は、本文中で紹介された容姿などから、現代のミヤコドリではなく、やはりユリカモメが定説となっている。山陰地方では、ミヤコドリに出会う機会は少ないが、ユリカモメは目にする事ができる。(山)

伯州綿～優れた弾力性と保温性

弓浜緋と伯州綿は、車の両輪でしょう。どちらが欠けても、伝統工芸は守れません。弓浜緋の材料となる江戸前期からの綿栽培の歴史が先行します。弓浜半島は、日本海と中海には生まれた細長い砂地で、綿栽培に適していました。明治 20 年の県内の綿栽培面積約 2700 畝の約 9 割が弓浜半島でした。綿栽培が始まった江戸期、砂地に必要な肥料は十分にありました。中海に豊富な藻葉(もば)です。さらに、上質な隠岐産の藻葉も持ち込まれました。北前船が寄港する境港からは、北海道産の鯨ノ粕(にしんしめかす)が移入されるなど、栽培条件が整っていました。綿の名称は「伯州綿」や「浜綿」などと呼ばれていました。この綿は弾力性に富み、保温性も良いなど高品質でした。木綿、緋織りの加工品や耐久性があることで、ふとん綿などとして喜ばれました。また、江戸期から、緋の染料となる藍の栽培も始まり、最盛期には藍染などを営む紺屋 54 軒を数えたとされています。(次号に続く)



美しく咲いた伯州綿の花



純白の綿(ともに境港市で)

織物教室

期間 6/29、7/13、27、8/24、31、
9/14 の計 6 回 時間 13:30~15:30
講師 弓浜緋保存会
内容 小型織機でマフラー制作体験
定員 12 人(先着順)
受講料 6000 円(別途、材料費)
募集開始 6/3(木曜日)

ベーシックヨガ教室

期間 6/29~9/14
火曜日のうち 12 回
時間 19:30~21:00
講師 山口由起子先生
定員 12 人(先着順)
受講料 3000 円
募集開始 6/3(木曜日)

いざという時の着物着付教室

期間 7/26~11/1
月曜日のうち 12 回
時間 19:00~21:00
講師 田中佳津子先生
定員 14 人(先着順)
受講料 3000 円
募集開始 7/2(金曜日)

利用者の皆様 マスク着用をお願いします

社会で役立つ毛筆習字教室

期間 6/21~9/27
月曜日のうち 12 回
時間 13:30~15:30
講師 世川道子先生
定員 12 人(先着順)
受講料 3000 円(別途、教材費)
募集開始 6/3(木曜日)

初めての中国語教室

期間 7/30~10/22
金曜日のうち 12 回
時間 19:00~20:30
講師 呉 燕先生
定員 12 人(先着順)
受講料 3000 円(別途、教材費)
募集開始 7/2(金曜日)

活動 ロシア料理教室(2/26)

ビーフストロガノフ等を調理しました



休館日 ◆5 月=毎週水曜日と 3 日(月)、4 日(火) ◆6 月=毎週水曜日

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が 9:00~22:00(日曜日は 17:00 まで)。部屋貸し出しは閉館の 15 分前まで。



あとがき

昨年 4 月の「米子市文化活動館」の始動から 1 年が経ちました。時が経つのは本当に早いですね。振り返ると、コロナで始まりコロナで終わった 1 年でした。当館は現在、この災禍にあっても、利用者の皆様のご理解、ご協力により通常通り開館しております。安全・安心を第一に皆様に必要とされる施設となるよう、スタッフ一同、一層の努力をしていきたいと思っております。(rahashi)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原 8 丁目 24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <http://asahibiru.com/ybkk/>